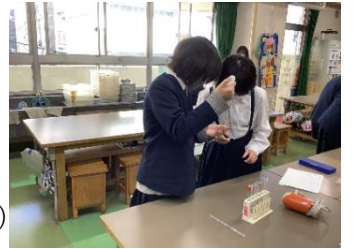


学びの部屋 ～6年生～「理科・水溶液の性質」

理科「水溶液の性質」では、薄い塩酸、炭酸水、食塩水、石灰水、薄いアンモニア水の5種類の水溶液を使って性質の違いを調べました。調べる内容は「見た様子」「匂い」「水を蒸発させたときの様子」「二酸化炭素をふれさせたときの変化」などです。調べてみると、炭酸水だけ泡が出ていること、薄いアンモニア水がつんとした匂いがあり、薄い塩酸も少し匂うことが分かりました。水を蒸発させたときに白い固体が残るものや二酸化炭素をふれさせたときに白く濁るものがあることも分かりました。

理科ではこのように実際に変化するところを見ることが大切、と考えています。化学変化を目の前で見ることで感動から興味に変わり、理科好きになってもらえればと思います。

(6年担任 齋藤 文子)



学びの部屋 ～算数科～「算数は途中式が美しい」

保護者の皆様が小学生のときには、どのような算数の授業を受けられていましたか。

私が小学生のときは、面積を求めるための公式は暗記するもの、計算の仕方は覚えるもの、と教わり計算練習主体の授業を受けていた記憶があります。 $\frac{2}{5} \div \frac{3}{4}$ が、なぜ $\frac{2}{5} \times \frac{4}{3}$ になるのか、等の計算の過程を友達と考える機会はなかったように思います。これでは、「知識・技能」は身に付いたとしても、「考える力や表現する力」、「主体的に学習に取り組む態度」は十分高まりません。ではどのような授業を目指すべきなのでしょう。

6年生児童を対象に「1に2を17回かけたときの1の位の数字は何になるかな」と問題を出しました。

子供たちは2かな、4かな、6かな、8かな、と言って予想をしました。結果を自分なりの方法で確かめるように言うと、様々な考え方が見られました。2を17回かけて計算する子、一の位の数のみを算出する子、一の位が2、4、6、8と繰り返すことを発見し、 $17 \div 4 = 4$ あまり1、と式を立てて考える子、等です。こうした多様な考えを学級で検討し、より洗練された解法は何かを考えていきました。検討後に、「2を40回かけたときの1の位はいくつになるかな」と聞くと「暗算でできるよ」と得意げに言う子や瞬時に算出できる子が増えました。このように、互いの考えを検討していくことでより使える解法を手に入れ、問題解決が楽しくなる、そして、それらを繰り返すことで思考力や表現力が高まっていく、そんなサイクルを生み出していきたいと日々考えています。

芝小学校の算数の授業は、知識の伝達や技能の習熟に終始せず、友達の多様な考えに触れたり友達と試行錯誤して新たな発見をしたりする場でありたいと思っています。「言うは易し行うは難し」です。こうした算数授業の実現を目指して研修を行っていきます。

(算数科主任 中嶋 広大)

チャレンジジャンプ

2月4日(金)と2月15日(火)の運動朝会は、2回目のチャレンジジャンプです。長なわの8の字跳びの3分間の目標回数を学級で決めて挑戦していきます。各学級では、体育の学習や休み時間を使って練習に取り組んでいます。

2学期のチャレンジジャンプでは、運動委員会の児童からチャレンジジャンプの応援動画が全校児童に向けて公開されました。運動委員会の児童は3分間で278回跳ぶことができ、全校児童から「すごい!」と称賛されました。学級ごとの最高記録では、4年1組が233回で一番でした。

「全日本なわとびかっとなわとび王選手権」では、2020年と2021年の大会はコロナ禍で開催されていませんでしたが、2019年の大会では、兵庫県にある西宮市立瓦林小学校の子供たちが素晴らしいチームワークで、1分間に195回跳ぶという記録を出していました。芝小学校の子供たちも、チャレンジジャンプを通して友達とのチームワークや絆を深めていって欲しいと思います。

(チャレンジジャンプ担当 安藤 衛)